

B. 円滑な学位授与の促進**⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実****●九州大学 システム情報科学府電気電子工学専攻****「5つの力をもつシンセシス型博士人材の育成」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

本教育プログラムで育成することを目標とした5つの力の評価システムとして九大独自の「C I 評価システム」を構築した。同システムは、研究や授業科目を通して5つの力の獲得・伸長を図る「九大方式カリキュラムインベントリ (Curriculum Inventory-CI)」の中核をなすものである。この評価結果は学生の指導や科目内容の改善に利用される。また、学生が発表 (プレゼンテーション) を行う科目においてその様子を動画として撮影、保存することにより、発表技能向上等に役立てることができる機能も有している。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

C I 評価システムを利用して5つの力の評価を行うには、まず、対象科目についてインベントリを作成し、システムにインベントリ内の各項目 (C I 評価項目) と重み係数を登録する。次に、科目で実施した評価の結果をシステムに入力する。5つの力への換算はシステムによって自動的に行われる。評価結果は、学生ごと、科目ごとに、数値あるいはグラフによって表示することができる。グラフは、5つの力の時間的変化を見るのに適した折れ線グラフと、5つの力のバランスなどを見るのに適したレーダーチャートの2種類が利用できる。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

教員は、指導する学生の5つの力の推移を定量的に把握することができるようになり、C I 評価データに基づき個々の学生毎に従来よりもきめ細かな指導ができるようになった。

学生は、評価の高い他の学生のプレゼンテーション動画を参考にすることで、プレゼンテーション技法を向上することができるようになった。